

## 令和7年度 学校改善計画

学校関係者評価委員会（古澤 昇委員長）よりいただいた報告・提言を受けて学校改善計画を作成しました。評価委員会には、本校がこれまですすめてきた教育活動について肯定的に評価していただき、教職員一同さらに学校改善に向けてさらなる想いを強くしたところです。また、その中で取り組むべき課題については厳粛に受け止め、次年度の教育課程の中で更なる工夫をしながら取り組んで参ります。その課題改善に向けて、令和7年度の重点目標と具体的方策を以下のように設定しました。

学校評価の結果をふまえて設定した課題

○重点目標1 ESDによる豊かな伝え合いを通して、深く考える子どもの育成（知）

### 関係者評価からの提言

「課題に向かって自分で考えたり友だちと考えたりする授業」「話し合いや発表を工夫した授業」「映像やタブレットを活用した分かりやすい授業」等の継続により、子どもたちは、自分の思ったことや考えたことを伝え合うことができるようになってきている。このことから、重点目標1は、達成できていると言える。「深く考える子どもの育ち」を支えているのは、豊かな伝え合いを作り出す工夫された授業であり、今後も子どもたちが自分の考えを伝えられる授業づくりを期待する。

### 〔数値目標〕

- 自分の思ったことや考えたことを文章や言葉で表現し、タブレット端末等を活用し、伝え合う場を多様に設定することにより「自分の思いや考えをすすんで表現する」子どもを90%以上にする。
- 「生活・総合的な学習の時間を通してESD、SDGsにすすんで取り組む。」子どもを85%以上にする。
- 豊かな伝え合いを作り出す工夫された授業を行い、「学ぶことが楽しい。」子どもを85%以上にする。

### 〔方策〕

「せたがや探究的な学び」をキーワードに、児童の学びに向かう力の育成を図る。

- ① 生活科・総合的な学習の時間において、一年間を通して学んだことの研究発表会を他学年の児童や保護者を対象に行う。体験的な活動を通して、課題について自分で考えたり、友達と考えたりすることにより、より自分の考えが整理される。また、タブレットのプレゼンテーションソフトを活用して自分の考えを表現することができる。
- ② 各教科において、ペア学習や小グループ学習での話し合い活動を可能な限り授業に取り入れる。タブレットを活用し、ロイロノートで友達の意見を共有したり、それを共通のノートでまとめたりすることにより、自分の考えを深めることができる。
- ③ 生活科・総合的な学習の時間において、協働して、アクションをすることで自分たちの考えを行動に移していく。ノートやワークシートへ自分の考えたことを文章や言葉で表現することにより、自分の考えを振り返り、次の活動につなげていくことができる。

## ○重点目標 2 自己有用感を高め、思いやりのある子どもの育成（徳）

### 関係者評価からの提言

「自分からあいさつの声をかけることができる」「心を込めて、ありがとうと言っている」「相手の気持ちを考えて行動している」子どもたちの項目が90%以上といずれも高い数値を示した。

「思いやりの気持ちをもって行動している」では、保護者が79%の値を示し子どもたちを認めているが、90%には達していない。これらの結果から、重点目標は、ほぼ達成していると言える。これからも、学校・家庭・地域の三者が同じ方向を向き、子どもたちを認め励まし、自分の言動に自信がもてるような関わり方をしていくことを望む。

### 〔数値目標〕

- 「自分からあいさつの声をかけることができる」子どもを90%以上にする。
- 様々な人と関わることを通して、人の気持ちを考えたり、人のために何かをしたりする経験を積み重ねることにより、「相手の気持ちを考えて行動している」子どもを90%以上にする。
- 「学校生活が楽しい」子どもを90%以上にする。
- 「先生に相談できる」子どもを80%以上にする。

### ◎方策

学校・家庭・地域が連携を図り、児童の「よさ」を見つけ、引き出す。

- ① 挨拶運動（翠と溪の学び舎やPTA活動、縦割り班活動）や日々の教育活動を通して、教職員全員で挨拶を促し、指導・助言する意識をもつ。
- ② 知的障害特別支援学級（かわせみ学級）との交流、異学年交流（なかよし班活動）による活動を行うことで、他学年の児童に思いやりをもって接することができるようにする。
- ③ 子どもたちが学校生活を楽しいと思えるように、学校・家庭・地域が連携を図る。また、何かあれば、先生に相談できる雰囲気をつくる。

## ○重点目標 3 健康な体づくりや体力の向上にすすんで取り組む子どもの育成（体）

### 関係者評価からの提言

保護者は「子どもたちは、体力向上や健康な生活に取り組んでいる」79%、「運動や遊びで体を動かしている」84%とほぼ80%以上の数値で認めている。それに対して、子どもたちは「すすんで運動する」や「食事・睡眠」「感染予防」などへの意識がやや低く66%～74%の数値であった。このことから、目標値を下回り、重点目標達成には至っていなかった。以上のことから、子どもたちが、さらに目的意識がもてるような保健や体育の授業を基にした健康づくりや体力づくりを学校・家庭・地域が連携して進めてほしい。

数値目標：「健康な生活をすることを心がけている」（食事や睡眠・早寝早起き）「めあてをもって体育や運動に取り組んでいる」（すすんで運動・体育や外遊び）と回答する児童を85%以上にする。

### ◎方策

児童が自分自身の「健康」を意識し、運動や休息、食事について考える機会を日常的に行っていく。

- ① キャリアパスポートを効果的に活用し、体育の学習で目的をもたせ、授業で記録したカードや持久走カード・縄跳びカード等をポートフォリオ化し、振り返り活動に力をいれながら学習を進める。
- ② 休み時間の外遊びで体を動かす楽しさを味わわせ、奨励する。
- ③ 家庭との連携を継続し「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底を図ったり、保健の授業を充実させたりして、健康な生活をすることを心掛けさせる。